

矢田俊隆先生略歴および業績

略 歴

- 一九一五年七月二三日 三重県桑名市に生まれる
一九二八年四月 三重県立桑名中学校入学
一九三二年三月 右四年修了
同 年四月 第八高等学校文科甲類入学
一九三五年三月 右卒業
同 年四月 東京帝国大学文学部西洋史学科入学
一九三八年三月 右卒業
同 年四月 右大学院入学
一九四〇年四月 東京帝国大学文学部副手（一九四三年まで）
一九四二年二月 日本大学講師（一九四六年まで）
一九四六年五月 第一高等学校講師（一九四七年まで）
同 年六月 東京女子大学講師（一九五〇年まで）
一九四八年九月 成蹊高等学校教授
一九四九年二月 成蹊大学教授

- 一九五〇年 四月 北海道大学法経学部教授
 一九五一年 六月 北海道学芸大学講師（一九五六年まで）
 一九五三年 八月 北海道大学法学部教授
 一九五六年 九月 小樽商科大学講師（集中講義）
 一九五七年 四月 北海道大学評議員（一九六〇年まで）
 同 年 七月 北海道大学スラブ研究施設研究員（併任）
 一九六二年 三月 法学博士の学位を授与される（北海道大学）
 一九六四年 一月 北海道大学法学部長（併任、一九六六年まで）
 一九六五年 五月 北海道科学技術審議会委員
 一九六九年 六月 名古屋大学法学部講師（集中講義）
 一九七三年 一〇月 名古屋大学文学部講師（集中講義）
 一九七四年 一〇月 金沢大学法文学部講師（集中講義）
 一九七八年 九月 北海道大学スラブ研究センター研究員（併任）
 一九七九年 三月 北海道大学を定年により退官
 同 年 四月 右名誉教授
 同 年 四月 成城大学法学部教授
 一九八六年 三月 右定年により退職

業績

主要著作および論文目録

一 著書

- 一九五一年 新稿世界史—欧米篇
- 一九五六年 民主主義への道（『世界史の人びと』VI）
- 一九五八年 三月革命
- 一九六六年 近代中欧の自由と民族
- 一九六八年 自由と統一をめざして（『大世界史』17）
- 一九七七年 ハプスブルク帝国史研究
- 一九七八年 ハンガリー・チェコスロヴァキア現代史
- 一九八四年 オーストリア・スイス現代史（田口晃氏と共著）

二 編著

- 一九五〇年 ヨーロッパの天才たち（山上正太郎氏と共編）
- 一九七七年 東欧史（新版）

有精堂	筑摩書房	弘文堂	吉川弘文館	文芸春秋	岩波書店	山川出版社	山川出版社	創芸社	山川出版社
-----	------	-----	-------	------	------	-------	-------	-----	-------

三 翻 訳

- 一九四三年 マイネッケ 『独逸国民国家発生の研究』
一九五一年 マイネッケ 『ドイツの悲劇』
一九六八年 マイネッケ 『世界市民主義と国民国家』 I
一九七二年 マイネッケ 『世界市民主義と国民国家』 II
一九六九年 マイネッケ 『ドイツの悲劇』 (改訳 『世界の名著』 54)
一九七四年 マイネッケ 『ドイツの悲劇』 (『中公文庫』)

四 論文・エッセイ

- 一九四一年 世界史と歴史学の問題 (『歴史』 一六一一)
ビスマルク時代 (『世界歴史』 7 河出書房)
第一次世界大戦と社会的不安—ドイツ (『世界歴史』 9 河出書房)
一九四六年 歴史家の仕事 (『文芸春秋』 二四—一〇)
一九四八年 ベートーヴェンとその時代 (『音楽芸術』 六一—三)
ワイマール共和制の崩壊 (『独逸文学』 二二)
ドイツ三月革命について (『月刊大学』 二一—六)

富 山 房
弘 文 堂
岩 波 書 店
岩 波 書 店
中央公論社
中央公論社
中央公論社

史学方法論（『哲学評論』三二七）

二つの歴史観（『思索』九）

一九四九年

フリードリヒ・マイネッケ（『自由主義思想十講』社会思想社）

マイネッケの『ドイツの悲劇』（『展望』四二）

ローザ・ルクセンブルク（『女性世界史』養徳社）

一九五〇年

ランケの世界史観（『歴史評論』四一）

ウェーバーとマルクス（『史学雑誌』五九一）

ドイツ歴史主義の危機（『理想』二〇四）

一九五一年

歴史学（『社会科学を学ぶために』創元社）

一九五二年

ヨーロッパにおける歴史学の発達（『日本歴史講座』河出書房）

国民主義運動（『西洋史学大綱』河出書房）

一九五四年

フリードリヒ大王の統治について（『北大法学会論集』四）

マイネッケ教授の逝去を悼む（『史学雑誌』六三—六）

一九五七年

- ロマン主義と民族観念(岩波講座『現代思想』3)
 一九五八年
 歴史認識の方法について(『思想』三九五)
 一九五九年
 啓蒙の社会的基盤—政治的地盤(講座『近代思想史』弘文堂)
 プラハに開かれた最初のスラヴ民族会議がヨーロッパ諸民族にあてた声明(『スラヴ研究』三)
 フリードリヒ大王(『西洋史物語』5「パリの赤い血」河出書房)
 一九六〇年
 パラツキー書簡とオーストリア・スラヴ主義について(『北大法学部十周年記念論文集』有斐閣)
 一九六一年
 ナシヨナリズムの性格(『世界の歴史』14 筑摩書房)
 一九六二年
 世界史におけるヨーロッパ(『世界の歴史』別巻 筑摩書房)
 一九六三年
 現代ヨーロッパの地位と諸問題(『歴史教育』一一—二)
 オーストリア社会民主党と民族問題(『スラヴ研究』七)
 一九六四年
 ドイツ三月革命と自由主義(『政治学年報』一九六四)
 一九六七年

- 一九世紀のナシヨナリズム（『世界の戦史』8 人物往来社）
- 一九七〇年
- オーストリア・ハンガリー帝国の崩壊（岩波講座『世界歴史』24）
- ハプスブルク帝国とメッテルニヒ（岩波講座『世界歴史』18）
- 一九七一年
- ハプスブルク帝国と民族問題（岩波講座『世界歴史』20）
- 東欧史（『世界史の研究』六六）
- 一九七二―七三年
- ハプスブルク帝国の分解と統合をめぐる諸問題——ドイツ民族の立場を中心にして（『北大法学論集』二三―二・三・四）
- 一九七四―七五年
- オーストリア・ハンガリー二重帝国の構造と特質——ハンガリーの立場を中心に（『北大法学論集』二五―二・四、二六―二・三）
- 一九七五年
- ハプスブルク帝国の軍隊と民族問題（『スラヴ研究』二〇）
- 一九七七年
- 一九一九年のオーストリア社会民主党とハンガリー・ソヴェト共和国の関係（『北大法学論集』二七―三・四合併号）
- オーストリア・ハンガリー帝国の解体と Anschluss 問題——一九一八―一九一九年のドイツ系オーストリア国の立場を中心に（『西洋史学』一〇四）
- 一九八二年

一九三四年の内乱とオーストリア社会民主党（「成城法学」11）

一九八四年

オーストリアとAnschluss問題（「成城法学」16）

一九八五年

初期の「護国団」Heimwehr運動について（「北大法学論集」三六一・二合併号）